

【第4学年】 児童の実態・課題及び授業改善策

	児童の実態・課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いをもてる児童は比較的多い。 ●新出漢字の学習には積極的だが、文章を書く際には、平仮名を使用したり漢字を正しく使えなかったりする傾向が見られる。 ●自分の思いや考えを明確にし、相手に分かりやすく伝えることの良さには気付いているが、工夫をしながら話すことに苦手意識がある。 ●相手意識をもって話を聞いたり、話の内容を理解しながら話を聞いたりすることに課題が見られる。(何となく聞き、細かいところを聞き落としている児童が多い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の練習は毎日行い、熟語や文章を作る練習をする。また、既習の漢字を含め定期的に小テストを行う。 ・相手意識をもち、分かりやすく話すために、朝のスピーチや話し合い活動を取り入れ、その都度、工夫のある話し方について確認していく。 ・聞き方（話す人の方を見て聞く、自分の考えと比べながら聞く等）を確認していく。 ・文章や問題を読む時は主語、述語を確認しながら読むよう声かけをする。 ・日頃からのノート指導で既習漢字を使うことや間違いの訂正を促すなど、漢字を正しく読み書きする練習を重ねる。 ・一人一人が大きな声ではっきりと発言できるよう声のものとさしを活用し、状況に応じた声の大きさで話せるよう指導する。 ・文章や問題を読むときには、登場人物の心情などや文と文のつながりを考えながら音読するよう指導する。また、家庭学習での音読の課題を継続して出す。 ・引き続き、「良い聞き手」を意識し、聞くの姿勢を徹底させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活と関連付けて考えたり、興味をもって必要な言葉を覚えたりすることができる。 ●資料を正確に読み取る力、分かったことを自分の言葉で分かりやすくまとめることに課題のある場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉をそのまま覚えるのではなく、生活に関連付けながら資料を読み取ったり、調べたり、考えたりすることができる授業をつくる。 ・自分の生活と関連付けて考えられるよう授業での振り返りを大切に、学習内容を深められるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ●かけ算九九やくり下がりのひき算が苦手な児童がいる。 ●知識を身につけるのに時間がかかり、習熟問題まで到達しない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・九九カードを配布し、繰り返し練習する機会を設定する。また、復習問題を授業開始時に行い、反復学習を行う。 ・休み時間を活用して、理解しきれない部分や終わらなかった問題に取り組んでいる。また、学習内容の理解が十分でない児童についても補充学習を行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ●実験に真剣に取り組むことができるが、実験結果から分かることを文章にまとめることに課題がある場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題→予想→結果→分かったことのステップで実験の流れが定着するようにする。 ・1単位時間の授業の流れが分かるようなノート作りが定着するようにする。 ・問題に対しての答えや振り返りをするように指導する。 ・実験の前に学習のめあてを必ず確認し、実験を通して知りたいことを明確にさせる。 ・自分の立てた予想と比べて考えを深められるようにする。 ・小集団から実験結果に関する意見を交流させ、学び合いながら結果をまとめる機会をつくる。 ・自然事象と学習内容を結びつけながら授業を展開する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ●お互いの演奏を聴き合うなどして、よりよい表現に高めていこうという意識に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・息を使わない楽器での演奏をし、グループでの発表を取り入れ、別のグループの良いところを探し合う活動などを取り入れる。 ・タブレットを活用して、自分たちの演奏を客観的に振り返る機会をつくる。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ●活動に取り組むことに苦手意識をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で、児童の考えや思いが広がるようにワークシートをかいいたり、全体で共有したりして、様々な考えやアイデアに触れる機会をつくる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ●体の使い方や技能を身に付けさせるための指導が難しい。 ●運動に苦手意識がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や児童が模範演技等をし、やり方を目で見て、イメージをもたせられるようにする。 ・ワークシートに毎時間のめあてを明確に示し、授業終了後にその日の活動を振り返り、自分で到達度が分かるようにして、その単元における自分の苦手なところを意識できるようにする。 ・頑張ったところを全体で共有していく。全員がすすんで活動できる授業を作る。 ・友達の上質なプレーや演技を見る時間を設け、できるイメージをもたせる。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ●正解を求め過ぎ、発話等の活動が消極的になる傾向がある。 ●集中が途切れやすく、盛り上がった雰囲気から単語などを正しく聞き取れない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に「自分たちもやってみたい」という意欲をもたせられる活動を取り入れる。 ・絵や写真などから考えられるように、ピクチャーカードを多く取り入れる。また、ALTを活用し、日本と外国との違いなどから児童が興味をもって活動できるようにする。 ・児童に発話の機会を多くもたせるために、小集団での活動を取り入れる。また、児童が自信をもって活動できるように、ALTや学級担任が楽しい雰囲気を作ったり、活動の中で発話の支援をしたり、積極的に関わる中での支援を行う。